

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	神戸大学
整理番号	A-I-7
事 業 名	東アジアにおけるリスク・マネジメント専門家育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">B	取組状況、目標の達成状況が事業計画をやや下回っているが、事業目的はある程度実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムについては、危機に対応してリスク・マネジメントができ、社会科学の専門性の高い、コミュニケーション能力に長けたグローバル人材の育成を、日中韓でコンソーシアムを作り実現しようとする計画に従って、枠組みが作られており、また、学生を丁寧にモニタリング、フォローアップし、教育の質保証に留意してきた点は評価できる。</p> <p>外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備については、日本語と日本文化に関する研修を課すことで日本での生活が容易に行える仕組みを工夫している。中国語、韓国語に堪能な教員を配置して派遣した学生の状況について協議できるよう支援体制も整備している。</p> <p>事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及については、国際化が大いに進んでいる国際協力研究科を実施部局に据えることで、既存の体制やダブルディグリーに関する経験を十分に活用している。海外への情報発信にも積極的に取り組み、留学生を惹きつける努力をしていることがわかる。</p> <p>しかしながら、目標の達成状況については、目標を大幅に下回っている。目標を示して補助金を得た以上、交流のスキームに課題があるのか、財政的な問題なのか、あるいはテーマが限定されていることが影響したのか、原因に対する分析が求められる。また、満足度に関する課題もより一層の改善が望まれる。</p> <p>留意事項への対応については、十分とは言えない。カリキュラムに関する改善や理論的考察が中間評価以降も十分に協議されていない。資金の制約もあるとしても、交流人数、満足度など、それ以上に発展性がみえない。</p> <p>リスク・マネジメントなどの社会的な課題に国際的に協力して共同教育やカリキュラム開発に取り組むこと自体には価値を認めるものの、実態として発展性や将来性がプログラムとしては明確に示されていない。今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対して貢献していくためには、枠組み自体に問題がなかったか、運営上の問題がなかったかを精査すべきである。交流が実績として進まなかった点は、真摯な分析と自己評価を行い、今後を活かしていく必要がある。</p>